

第2学年西組国語科「絵を基に、出来事の内容や順序を考えて、物語を書こう」

実態把握資料

学習指導者 岡根 平

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する子供(35名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p>社交性</p> <p><b>さ力</b></p>  <p>共感性                      協調性</p>	<p>目標への情熱</p> <p><b>ぬ力</b></p>  <p>粘り強さ                      忍耐力</p>	<p>自分を信じる力</p> <p><b>き力</b></p>  <p>レジリエンス                      自制心</p>
<p>「協調性」の自覚度が高く、友達と意見が違っていてもきちんと聞こうとしたり、友達と一緒に活動したりしながら学習に取り組んでいることが伺える。一方で「社交性」の自覚度が低い。授業中の様子を見ても、友達から話しかけられたら答えるが、自分から次々に関わろうと声をかけている子供は限られている。また、安心して交流できる仲のよい友達とだけ交流している様子も見られる。</p>	<p>「ぬ力」の自覚度は比較적인どの力も高い。項目別に見ても、「目：目標を立てて、それを目指して頑張っている」や「粘：何か失敗してもそれをよりよくしようと考えている」などの自覚度が高く、目標に向けて自分のすべきことや、したいことに前向きに取り組んでいる様子や、最後までやり抜こうとする姿が伺える。一方で、授業中、目標への意欲はあっても、どうやって解決すればよいか分からず、手が止まっている子供も一定数いる。</p>	<p>「自制心」の自覚度が高く、自分のしなければいけないことを理解して授業に臨んでいることが分かる。また、「自分を信じる力」も高い。特に「自分には得意なことがある」という項目については、全員の子供が「そう思う」と答えており、自分のよさを捉えていることが伺える。一方で、「レジリエンス」の自覚度が他に比べて低い。うまくいかなかったと感じた時の気持ちの整え方や、改善策を考えられるようにする必要がある。</p>

2 教科に関する子供の実態

- ・国語が好き(34名)あまり好きはでない(1名)
- ・物語を読むのが好き(30名)あまり好きはでない(5名)
- ・物語を作るのは得意(17名)あまり得意ではない(5名)苦手(13名)

【否定的な回答の理由】

- ・内容が思いつかない(14名)
- ・文が長くなる(2名)
- ・その他(2名)

国語の授業に対しての意欲は高く、物語を読むことも好んでいる子が多い一方、創作になると、どんな内容を書けばよいか分からない、という困り感を感じている子供が多いことが分かる。

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…学習への意欲は高く、知的好奇心も高いが、一つのことに集中し続けることが苦手である。詩や物語の創作など、自由に発想する活動には好んで取り組むことができる。

B児…各実態調査に対して否定的な回答が多い。授業では、自分の考えを作ったり、発表したりするなど前向きに参加しているが、交流の際など、友達に進んで話しかけることが苦手である。

## 第2学年西組 国語科学習指導案

「絵を基に、出来事の内容や順序を考えて、物語を書こう」



学習指導者 岡根 平

### 1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【詳細はこちら】

本単元では、「始め・中・終わり」の「中」の出来事を考えて物語を書き、図書室に展示するという言語活動を設定する。子供たちは単元の導入で、教師が作成した、「中」で起こる出来事が違う、二つの物語を比べて読むことで、「始め」や「終わり」の場面が同じでも、違った物語になることに気づき、「中」を想像して物語を創作することに興味をもち、「どうしたら『中』を工夫した物語ができるのだろう」という問いを見いだしていく。そして、既習の物語の構成を振り返ることを通して、物語は「始め・中・終わり」で構成され、「中」は「事件」と「解決」が描かれていることを捉える。「事件」や「解決」の場面について、構成メモを書く際には、既習の物語から見付けた事件をまとめた「事件カード」を参考にし、場面のつながりを意識しながら、どんな事件が起こるか想像したり、観点毎に出来事を書いた「解決カード」を付け加えたり、順序を並べ替えたりして、粘り強く自分の思いや考えを明確にしていく。また、作成した構成メモを友達と見せ合い、助言し合うことで、出来事の内容や順序について粘り強く確かめていくのである。例えば、「僕は橋が壊れているという事件を解決するために、まず、『森に行く』、次に『橋の材料を手に入れる』、『橋を直す』という順序でお話を考えたよ」「なるほど。そこに、『大工さんと出会う』を加えたらどうかな」「おもしろそうだね。それなら、『森に行く』の後にそれを入れて、『直し方を教わる』という出来事をさらに付け足してみよう」などと、「解決」場面で起こる出来事やその順序について粘り強く考えていくのである。このような学習を通して子供たちは、伝えたいことを相手に分かってもらうためには構成を考えることが大切であることに気づき、他の文章を書く際にも、構成を検討しようとしていくだろう。

### 2 単元計画と働きかけの概要（本時 6/9）

次	学習の流れ	働きかけ
一	<p><b>① 学習の計画を立てよう</b></p> <p>「始め」と「終わり」は共通で、「中」の部分だけを想像して物語を書き、図書室に展示するという単元のゴールを設定し、物語創作の学習計画を立てる。</p>	<p><b>見通し</b> 情【作家デビューへの道】②～⑨</p> <p>単元のゴールと学習計画を確認し、課題設定の理由を問うことで、ゴールと本時とのつながりを感じやすくする。㊦単元のゴールを意識して課題解決の価値を感じ、本時の課題設定の理由を言葉にしたり、友達の発言に対して納得したりしている姿に共感する。</p>
	<p><b>② 物語のつくりを知ろう</b></p> <p>既習の物語を振り返り、物語が「始め・中・終わり」の三つに分かれていることや、「中」には、「事件」場面と「解決」場面があることを捉える。</p>	
	<p><b>③④ 物語の「事件」場面を考えよう</b></p> <p>既習の物語の事件を分類し、「事件カード」としてまとめる。それを基に、創作する物語の「始め」と「終わり」の様子から、どんな事件が起こるかを想像し、構成メモに書く。</p>	
二	<p><b>⑤⑥ 物語の「解決」場面を考えよう</b></p> <p>既習の物語の解決方法を分類し、「解決カード」としてまとめる。その後、カードを並べ替えたり、付け足したりしながら、自分の物語の解決場面を考え、友達と話し合い、自分の物語の構成メモを完成させる。</p>	<p><b>行動</b> 粘【事件カード・解決カード】③～⑥</p> <p>既習の物語から見付けた事件や解決方法をまとめたカードを使ったり、考えたことについて友達と助言し合ったりし、出来事の内容やその順序について粘り強く考えることができるようにする。㊦物語で起きる出来事の内容や順序を粘り強く想像したことで課題解決ができたと感じている姿を称賛する。</p>
	<p><b>⑦⑧⑨ 構成メモを基に、物語の文章を書こう</b></p> <p>構成メモを基に、物語の文章を書く。その後、できた作品を友達と読み合い、感想を伝え合う。完成した物語は図書室に展示し、全校生に読んでもらえるようにする。</p>	<p><b>振り返り</b> 信【ファンレタータイム】④⑥⑨</p> <p>友達の作品や学び方のよさについて観点を示し、互いに伝え合う。その後、自分の頑張りや次に頑張りたいことを振り返る場を設定する。㊦本時の頑張りや、次に頑張りたいことを考えられている姿を称賛する。</p>
三		

### 3 本時の学習

目 標	物語で起きる事件の解決方法について、「解決カード」を基に考え、考えたことを、友達と交流する活動を通して、解決場面で起こる出来事やその順序など、簡単な構成について粘り強く考えることができる。
--------	--

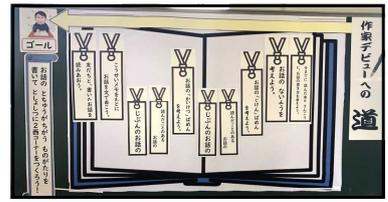
学習活動と働きかけ		主な子供の意識	
見 通 し	1 学習課題を確認する。 【作家デビューへの道】 【目標への情熱】	<p>昨日は、今までに読んだお話の「解決方法」について考えたよ。</p> <p>今日は、今考えている物語の「解決」場面を想像していくのだったね。</p> <p>「解決」場面が想像できたら、構成メモができて、物語の完成にまた一歩近づくよ。早く「解決」場面の出来事を考えたいな。</p>	<p>今は、図書室に展示するための物語を、自分で想像して書いているよ。</p>
	<b>ものがたりの「かいけつ」ばめんをかंगाえよう</b>		
行 動	2 「解決」場面の出来事やその順序について想像する。 【解決カード】 【粘り強さ】 (1)自分で (2)友達と	<p>前に見付けた「登場人物がすること」「アイテム」「新しい人物」といった三種類のカードを使って考えよう。</p> <p>事件とのつながりや出来事の順序に気を付けて考えるといいんだね。</p> <p>僕の物語で起きる事件は、「悪い熊が道を通してくれない」だ。まず、「森に行く」、次に「ハチと戦う」「蜂蜜を手に入れる」、最後に「蜂蜜をあげる」という順序で想像したよ。</p> <p>探す時には、「望遠鏡」のようなアイテムを増やすとどうかな。</p> <p>順序を入れ替えてみたけど、元の順序のままが分かりやすそうだよ。</p> <p>友達と交流したことで、よりよい解決方法が見付かったよ。もう一度、出来事や内容の順序を見直してみよう。</p>	<p>私の物語で起きる事件は「おもちゃがなくなる」だ。まず、「通った道を探す」、次に、「おもちゃで遊んでいるウサギと出会う」最後に「おもちゃを返してもらおう」と考えたよ。</p> <p>どうして、蜂蜜を取りに行ったのかが分かるといいんじゃないかな。</p> <p>「蜂蜜を取る」、「ハチと戦う」の順序もおもしろいんじゃないかな。</p>
	3 想像した出来事やその順序について再考する。 【解決カード】 【粘り強さ】	<p>「悪い熊がお使いを頼む」を増やしてみよう。蜂蜜を取ったらハチが怒って戦った、という順序の方がおもしろそうだから、順序も変えよう。</p> <p>カードを使って考えたことについて友達と交流し、出来事を増やしたり順序を考えたりしたから、自分が伝えたい「解決」場面ができたよ。</p>	<p>「アイテム」カードはまだ使ってなかったな。望遠鏡を使ったらウサギを見付けた、とつないだらおもしろそうだ。探しに行く前に入れよう。</p>
	4 本時の学習を振り返る。 【ファンレタータイム】 【自分を信じる力】	<p>〇〇さんの物語は、おもちゃをなくしたことと解決方法がうまくつながっていておもしろいよ。</p> <p>場面がつながるように、「解決」場面を考えることができたよ。</p>	<p>△△さんは、いろんなカードをどこに付け足すか、順序を一生懸命考えて、物語を考えていたね。</p> <p>構成メモができたよ。次はいよいよ、メモを基に物語を書いていこう。</p>

評 価	物語の事件を解決する方法について、解決カードを活用して考えることや、友達と助言し合うことを通して、「中」で起こる出来事やその順序について粘り強く想像するとともに、考えた構成を基に、物語を完成させることへの意欲を高めている。 【方法：発言・様相・記述】
--------	---

働きかけの詳細資料

～見通し～ 情【作家デビューへの道】(2～9時間目)

『中』のちがう物語を書いて、図書室に展示する」という単元のゴールと学習計画を、補助黒板に示す。本時は、前時に設定した「物語の解決場面を考える」という学習課題を設定した理由を問い、発言した子供の理由に、自分も納得できるかどうかを尋ねる。本時の学習課題とゴールとのつながりを意識できるようにすることで、本時の課題解決の価値を感じ、意欲をもって課題解決に取り組めるようにする。



【作家デビューへの道】

一つのことに集中が続きにくいA児には、前時まででできたことや、本時、解決方法をたくさん表現してもよいことを確認することで、本時の課題解決への意欲を高められるようにする。

**価値付け** 本時の課題設定の理由を尋ねた後、課題解決の価値を感じて、理由を言葉にできている姿や、その理由を聞いて納得している姿について、「今日の目当てが達成できたら、物語を書いて展示するというゴールにまた一つ近付けそうだね」と共感する。

～行動～ 粘【事件カード・解決カード】(3～6時間目)

どんな物語にするか構成を考える際には、これまでに読んだことのある物語を振り返り、そこで捉えた事件や解決方法についてまとめたことをカードにしておくことで、物語の創作に生かせるようにする。本時使う「解決カード」は、「人物のすること」「アイテム」「新しい人物」の分類毎に色分けしておき、どんな出来事を付け足すか、多様に想像しやすくする。また、「始め」と「終わり」の様子や、これまでに考えた物語の事件を記述した構成シートを併せて用意し、出来事を書き込んだカードを新たに加えたり、



【構成シートと解決カード】

順序を入れ替えたりできるようにすることで、出来事の内容や、その順序について、多様に試せるようにする。考えたことについて友達と交流する際には、互いの構成シートを見て話し合う。その際には、「事件とのつながり」と「順序」に気を付ければよいことを全体で確認すると共に、カードの内容、順序について助言し合う時間をそれぞれ別に設けることで、新しい視点を取り入れながら「解決」の方法を考えることができるだろう。交流後は、改めて自分の構成シートを見直し、事件を解決するための出来事やその順序について再考する。自分から進んで交流に参加しにくいB児には、先にペアの友達から助言をもらうよう、事前に確認しておくことで、安心して活動に取り組めるようにする。

**価値付け** 再考後、カードの活用や友達との交流を基に、多様に「解決方法」を想像したことで「解決」場面が考えられたと感じている姿を、「解決カードを使ったり、友達と交流したりして、いろいろと想像を広げたから、「解決」場面を考えられたね」と称賛する。

～振り返り～ 信【ファンレタータイム】(4・6・9時間目)

本時の振り返りでは、まず、友達の構成メモを読み、『事件』と『解決』のつながり』『解決』の仕方のおもしろさ」「課題解決に向けての粘り強い取組」の観点について3段階でよさを伝え合う。その後、友達から伝えてもらったことを基に、「本時頑張ったこと」を振り返り、「次にしたいこと」を書く時間を設けることで、本時の頑張りを捉えやすくしたり、次にしたいことを考えたりしやすいようにする。



【ファンレタータイム】

**価値付け** 自分の頑張りが次にしたいことを書いた後、友達のコメントを基に、自分の頑張りを捉えている姿について「ファンレターを読んで、自分の頑張りを見付けられているね」と称賛する。その後、次にしたいことを見付けている姿を「今日の頑張りを見付けたから、次にしたいことを考えられたね」などと、称賛する。